



魅力ある「結束の森」

〈石神 良三〉

〈結束集落周辺の様子〉

結束の森は、結束集落の人々の農業生産とそのくらしを支えてきた、四百年以上もの歴史をもつ里山である。

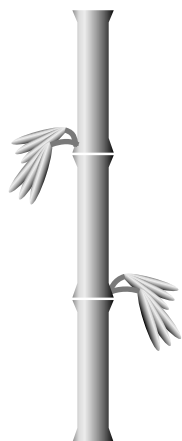
現在の森全体の面積は27ヘクタール余を有し、地権者である結束集落の人々の手により管理継承されてきた貴重な文化的財産でもある。牛久自然観察の森に隣接する六ヘクタール余りも牛久市の条例による「みどりの保全区」に指定されており、里山の保全上からは理想的なカタチで『結束の森』は息づいているといえる。

●魅力その1：集落全体を抱きかかえるその景観

小野川べりから集落を望む景観は、古き時代からのメッセージを伝えてくれる。集落の全面に広がる畑と水田、後背部にはそれらを抱きかかえるようにつながる森との一体感は、里山を中心に形成された米作りの歴史を今に伝えてくれる。

●魅力その2：モザイク上の林相

27ヘクタールという限られた土地に、植林であるスギ林、二次林であるコナラ、クヌギを中心とした雑木林、萱場であるススキ原、竹林、草地、ササやぶ、シラカシを中心とした照葉樹林などが、面積の大小はあるがモザイク状に混在している。（これは地主さんが複数であることにも関係する。）これらは、農業用の堆肥や用材、建築用材、燃料用材、など人々のくらしを支えてきた里山の役割を考える上で、多くのことを教えてくれる。〈二面へ続く〉



●魅力その3：植物や小動物の多様性

モザイク状の林相とその保全管理（牛久自然観察の森・うしく里山の会）の成果もあり、かつての里山を彷彿とさせる多様な植生と、昆虫や野鳥など多くの生きものに会うことができる。来園者にとっては



<スギ林だけではなく、雑木林があるのも里山の一つの特徴>

●魅力その4：フクロウの棲家

牛久自然観察の森はフクロウの棲む森としても愛され親しまれているが、正確にはフクロウの棲む「結束の森」といえる。ネイチャーセンター近くで営巣し、巣立つ雛鳥を見るにつけ、この森の秘めている懐の深さを感じさせられる。フクロウの生態からは、少なくとも三月から九月の間は、この森で親子でのくらしが続けられる。フクロウが棲み付き子育てを可能にしているのは、結束の森（周辺）で生きるための餌が確保できるという証明である。ちなみに餌となるのは、この森に限ってみると主に野ネズミ（アカネズミ）、野鳥、ノウサギ、カエル、昆虫などです。更に、これら小動

物の餌は、ドングリをはじめ草木の実、昆虫の幼虫や成虫、ミミズなどの土壌動物、など多種多様です。このように食物連鎖の頂点にあるフクロウが生きていけるということは、この結束の森が如何にバランスのよい生態系が維持され、豊かな森であるかを物語っています。

プロジェクト活動報告

里山の会では、牛久全域で植物観察、雑木林の手入れ、巨木調査など様々なボランティア活動を行っております。それでは、各プロジェクトがどのような活動を行っているのか皆さんに紹介したいと思います。



雑木林応援活動報告

雨宮・飯田

【四月二十二日 竹の子掘り】

生協（ハイコープ）との三回の連続協働事業の最終回、十一月に竹林の整備で竹の切り出し、十二月に竹の切り出しと竹の花器づくり、そして今回、まだまだではあるが整備されつつある竹林に生えてくるタケノコの収穫、自らの労働の成果を掘り起こす、この作業も整備であり、そのままにしておく、また竹やぶになつてしまふ。タケノコ用のクワがないのでスコップで回りを掘り起こし、根元を定めてからスコッ

プで掘りあげるとおしらせし、掘り出しの開始。

スコップの上に飛び乗のり深く掘り下げる、根が縦横に張っているの思い通りにスコップが土に入らない、普段と違う体を使うので大変そうである。10時30分過ぎにはたくさん



<竹林の手入れと春の味覚が一度に楽しめる竹の子掘り>

のタケノコが山積みになっている。今日は私たちの活動の拠点になっている「観察の森」を見ていただこうと観察会を計画、十一時近くになつてしまつたけれど村中レンジヤ

ーの案内で植物観察、NC前のオオイヌノフグリから野草・雑草の違いなど説明を観察舎前までおよそ四十分案内していただき、かわいい植物をすることができ、拍手のお礼で終わりとした。

ムジナにもどり昼食、タケノコ入りの具たくさん味の汁はもちろんのこと、私たちがいつも食べている、ダッチオーブンであるいはアルミホイルで包み火の中で焼いたタケノコを、摘んできた山椒を味噌に砂糖を少々いれて合せた山椒味噌、ワサビ醤油で食べる、毎度食べても美味です。昼食が終わり、疲れているようなので、皆で片づけを行った、コープ参加者には掘り

起こしたタケノコを分けていただき、最後にまた機会があったらと、両手の袋にたくさん持って帰っていただいた。

その後、応援隊のメンバーがまた掘り出し始めている、この時期はたくさん掘らないと採りきるのは大変、それぞれに持ち帰り今日を終わりとした。

外部の団体との協働事業であったが、応援隊の皆さんの協力でなんとか三回を終えることができホッとしている。

【五月十一日 炭焼き・炭小屋整備】

当初、公開炭焼きを考えていたのだが、ペール缶が整わない等準備が十分で無かったため会員のみで炭焼きとなった。今回は木炭の予定である。前日、事務局の若林さんより会の活動見学希望があった男性に、お誘いの電話を入れる。不在で有ったが、炭焼きの話と奥様にすると、「そんな事は大好きなので、必ず参加するでしょう」とのお言葉。予想通り、三日間の炭焼きにフル参加して頂き、会へも入会するとの事。又、得難い仲間が増えたことが嬉しい。

前回の炭焼きは時間が無く、平日に出て貰って閉めた関係上、出来ばいが心配だったが予想以上の秀作が出てきて、皆、感嘆の声を上げる。やはり、木炭を三日間で仕上げるには相当気を入れて燃やさないと、時間内では終わらないようだ。焼き初めの温度上昇と夜間の温度維持がポイントだろう。炭出しから炭材入れに半日かかってしまう。前段取りとして、火入れの前に、こ

の作業を済ませることを心がけたいものだ。実際、火を入れてからは火の番に1〜2名居れば済むので、その間、炭小屋周辺の整備を行った。物置が購入出来たためだが、炭窯の屋根を作り直してから初めての本格的な整理では無いだろうか。雑然としていた訳ではないが、やはり火の用心と周



＜観察の森 梅林奥の炭小屋＞

てしまった。家でもしない作業を、良くもまあ、文句も言わず淡々と行っている男性を見てみると、私と一緒に、本当に好きなんだなと思う。「今日の作業内容は家では言えないな。カーチャンに何を言われるか分からない」
ごもつともである。

竹材、木材と場所を分けて積み上げ、使いやすく、見た目もきれいで安全な片づけを目指す。時間が有ったら機械の整備でも

辺の安全確保のためにも的確な整理が望ましい。しかしまあ、出るわ出るわ、簡単な整理を予想していたのだが、二日間はおか

：と思っていたのだが、窯の土の片付けも始めたため機械整備までは行わなかった。

この炭窯の土は面白い物で、粘土状にして火を通すと硬く固まるのだが、砕くと元に戻り、何度でも使えるという貴重なものである。使えそうな土が見つかると同じように使ってみるのだが、一度火を通すと元には戻らない。この土も新たに手に入る目処が立たず、炭窯をもう一度作り直したら終わりかも知れない。

作業の合間に手を休めて周りを見てみると、たっぷりの新緑と鳥の声、炭窯からの煙と慣れ親しんだ匂い（臭いでは無い）。
自分、止められない。



雑木林畑隊活動報告 小野寺

【花も蜂も】

桜が満開となった四月中旬、畑隊のWさんが、蜂とり器を森の炭屋の西と、ムジナの里に設置しました。これは数年前に、活動中の会員が蜂に刺された事故が数件あった以来、毎年設置しているのですが、特に今年は暖冬の後でもあって、早めにしたものです。

四月末、炭焼きの合間に、設置した蜂とり器を点検した結果、スズメ蜂は10匹も捕獲されており、そのうち2匹はオオスズメ蜂であったとのことでした。

蜂とり器は私たちが定例的に活動する場所を重点的に配置しますが、これ、私たちの活動の安全が保障されたわけではあ

りません。安全は、対象の把握から、となれば蜂の場合は「蜂の習性」を知ることにはじまり、服装、帽子、眼の保護等々、心掛けなければならぬことは数多くあります。



＜ペットボトルで作る蜂とり器＞

中身はオレンジジュースにお酢を混ぜたものなど。臭いは強烈です。

また、実害はほとんどないのですが、活動に支障を及ぼすものに蛇があります。五月初め、森内の日だまりで、身丈23、径5〜6cmの青大将に遭遇しました。古来、青大将はその家の財産を保護し、金運をもたらすと珍重されてる向も少なくないのですが、隊員の評価はちょっと異なったよう、森の静寂を破る悲鳴でかの大將は茂みの奥に追いやられることになりました。

里山の活動は楽しみながら進めたいものです。その途上で生ずる障害や危険は皆無には出来なくとも、避けることはできる筈です。

そうして得られた「体験」こそ、次なる活動の楽しい源になるとおもわれます。



じゃがいもプロジェクト活動報告 本多

五月五日。真夏のような陽射しでした。参加は大人九人。

三月三十一日の種芋の植えつけから二回目の活動は、芽かき作業の日。キタアカリ・トウヤ・メイクイン・アンスレッド・インカノメザメは、発芽・成育状態がさまざま、これからの時間に期待する。

本年度の新企画『じゃがいものお花見会』に備えて、5種の品名を標示したが、チラホラの発芽の敵で、どうも自信が無い。

お花が咲いて実になって、収穫するまでは?????初めて聞く名前の品種には、皆が楽しみにしてますので、どうぞ大収穫になりますように。

今日の作業は、芽かきに3に雑草取り7程の作業量だったような気がしたのは、当日の暑さのせいかな。和やかな会話と、加藤さんの腕自慢の品々、足名さんのシソジュースで元気をつけながら時間いっぱい作業をしました。

お昼の前には『森の駐車場』が満杯になっているという情報で、里山の会員としては早めにひきあげることになりました。今回残念なのは、児童・親子組の出席が0でした。ゴールデンウィーク終盤でなのかなと思ひ、反省材料にします。

次回は六月9日に土寄せです。馬鈴薯（11鈴なり）にナア〜と念じなが

ら。収穫祭のお楽しみ企画に必須のサツマ芋も作ることにしました。



里山自然隊活動報告

平塚

今年度5回の実施を予定している里山「植物観察会」の第1回を5月12日（土）に実施しました。

当日は快晴で風もなく気温も暑くもなく寒くもない絶好の観察日和でした。当日の参加者は7名。新緑の雑木林に分け入り、渡辺泰さんの指導の下、樹木、野草の観察・調査を実施しました。観察場所は小野川上流域の2カ所（東大和田地区と猪子地区）の雑木林。

東大和田地区の雑木林ではキンランの鮮やかな黄色の花、子供時代に頬張ったこともあるウグイスカグラの赤い実（実の付き具合は余り良くなかったが）、花期は過ぎたが独特の雰囲気のマムシグサ、神社の社殿の軒先に下がっている鰐口に2個の包の形が似ているワニグチソウの群落などが印象に残ります。林縁では何種類ものスミレを確認しましたが、既に、花期は過ぎ、葉が大きく育っていました。日の当る林縁は林の奥に比べ植物の種類が多いのも実感されました。この雑木林は下草刈りなどが余り行われていない様子で林の中を歩くのにアズマネザサや倒木が障害になり難渋しました。又、管理が十分でない故か、太いフジの蔓が巻き付いたクヌギやコナラが何本も

見られました。

猪子地区の雑木林は下草刈りや落ち葉かきがなされておりましたが、草木の一番成長するこの時期を迎え、林床の草丈は既に30cm近くに伸びていました。ここではまだ花が咲いていない段階のハバヤマボクチを多数確認することができました。

今回の調査では東大和田地区で草本44種、木本45種、猪子地区では草本37種、木本18種を確認し、それぞれの種類の発生量を記録しました。

尚、次回の活動は牛久の「植物ガイド」の第2回目を6月9日(土)に予定しております。観察の森周辺で「草木の花」を観察します。一般市民の方、会員の皆様の参加をお待ちしています。

＊集合場所 観察の森駐車場

＊連絡先 029-1873-6562 高野



ウツグチソウ ユリ科 アマドコロ属

林床に咲く花たちは落ち着いた雰囲気、見る人の心を和ませます。



さとやまがつきゅう活動報告 若林

四月二十二日 「里山に春が来たよ。私たちも会いに行こう！」

ちも会いに行こう！」

春といってもまだ肌寒い四月。でも、地面の下からは春の陽射しを待ちわびた可憐な草花や山菜が顔を出し始めていました。今日は、風が強い日でしたが、十二名のご家族が参加されました。

なんと、おばあちゃんから孫までの三世代で参加されたご家族もありました。

まずは、手始めに葉っぱ遊び。葉っぱの中にはちよつと工夫をすると笛になったり、でんでん太鼓になったりと音の出る物があります。「ナズナ」は皆さんおなじみですね。ちよつと細工をしてくるくる茎を回すとパチパチと音がします。ナズナは「ぺんぺん草」で有名な野草。春の七草の一つでもあります。

ネイチャービンゴカードをもって遠山地区を巡れば気の早い蝶が飛んでいたり、わき水がさらさら流れる音が聞こえたり、その流れの中にはまだ足も生えていないオタマジャクシがかわいい姿を見せてくれました。午後には「コテコテばあさんを探せ」というゲームをしました。

みなさんコテコテばあさんと聞いて何の事かわかりますか？

ヒント。子どものうちは怖いハンター。でも、大人になるとひらひらと空を舞います。



<ヨモギやセリの山菜採りの様子>

これだけで答えがわかったらちよつと凄い。答えは、「アリジゴク」。アリジゴクには地方によって何種類もの呼び方があるそう、コテコテばあさんもその一つ。雨のあたらないカント

リーラインの橋の下でみんなで探しました。アリジゴクが成虫になるには二〜三年必要とのこと。無事に大空を飛べればいいですね。鏡を使って森の中を歩いたり、ヨモギやセリ、コゴミなど山菜狩りを楽しんで、一日中春の里山を満喫しました。やはり、おばあちゃんは山菜に詳しいですね。色々な野草の新芽が食べられることを教えていただきました。

親やおばあちゃんから子どもたちに伝わる。これはさとやまがつきゅうが目指す一つの形でもあります。こういった繋がりがもっともつと増えるといいですね。

会報がお手元に届くときには5月の活動は終わっています、8月に活動を予定しています。スタッフ一同皆様の参加をお待ちしております。



牛久沼観察会報告

井上

四月二十二日土曜日牛久沼を船で一周できるというので参加しました。当日は残念ながら南の強風が吹き荒れて船での一周は中止となりました。こんな風のことを「バ力南」というそうです。

牛久沼漁業協同組合の大野さんのお話を聞いてから車で一周することになり、まずは広場の清掃で三十分ゴミ拾いをしました。大野さんから牛久沼の歴史、環境、水質などについて話していただきました。歴史については、江戸時代、沼周辺に住む人々が米の収益を上げる為に、徳川家から開拓を任せられ何度かの洪水で川は反乱し田畑は流

＜大師堂から見た牛久沼と牛久沼大橋＞



され失敗に失敗を重ねて残ったものは莫大な借金、桜井庄兵衛さんはじめ一町一村八大字の人達が力を合わせて借金を返済し、牛久沼の



牛久沼漁協組合副組合長 大野 清さん

土地の下げ渡しを願い出て一町一村八大字の人達の財産となりました。

今も牛久沼周辺は国の財産ではなく、沼の水を利用する人々の財産となっています。

私のいちばん知りたかったのが水質ですが、水質保全に力を入れ国のきめた基準にはまだ届かないけれど毎年少しづつですが良くなってきているそうです。沼の魚もブラックバス等は減少し、フナ、ウナギなどのもともとも沼にいた魚が増えて来ている。わかさぎは毎年北海道から卵を買い孵化させ放流もしているそうです。きれいになってきているとはいえず、魚たちにとっては良い環境とは言えません。周辺の団地からの生活排水が入り込まない工夫がなされれば沼の水はもっときれいになることでしょう。私達ももう一度家のなかを見直し、ごみを減らし、水を汚さない工夫を考え直す良いきっかけになった一日でした。



牛久沼自然観察の森 指定管理者報告

齊藤

「エネルギーの削減状況について」

先月号では平成十八年度（以下H18と表記）の入園者数が大幅に増加した事をご報告しましたが、今月号ではH18エネルギー削減達成状況をお知らせします。

まず、市役所への提出が定められている項目をご説明します。①電気使用量（ネイチャーセンター、第1駐車場トイレ、総量）、②LPガス（事務室内）、③ガソリン（公用車走行距離、公用車使用量、機械作業使用量）。

①についてH18はネイチャーセンターが139866kWh（H17は160297kWh）、第1駐車場が3

714kWh（H17は3579kWh）、総量は143580kWh（H17は163876kWh）となりました。これを来園者一人当たりへに換算するとH18は3kWh（H17は6kWh）と半分の値になりました。また、②についてH18は5.9m³（H17は10.7m³）、③についてはH18の走行距離は1621km（H17は3579km）、使用ガソリン量は公用車がH18が144ℓ（H17は306ℓ）、機械用がH18が135（H17は320ℓ）となりました。



巨木リサーチ事業報告 樹高計測G 飯田

四月二十八日(土) 市役所前集合 くもり。今日の予定の説明と天候が午後から雷の予報があるので、雷が鳴り出したら中止にする確認し出発。

柏田神社参道入り口脇にあるシラカシにからみついたフジの計測、参道脇の背丈くらい高くなったところに根元がある、やぶの中のため直接見通せない、見通す場所が下っているため水平での見通しが困難である。樹木の根元の仮点を参道上に設け巻尺で樹木の先端が見える場所まで距離を計測、樹木の頂点を2方向から確認すると手前に見えたのが頂点ではなく、後ろにある枝が頂点であることがわかる。根元が水平より高い位置にあるから、TP(トゥルーパルス)での計測は不可能ではないかなどと議論しているうちに他の調査グループは終わっている。角度から電卓を使って算出した樹高とTPで計測した値に大きな開きはないが、不確定な要素が多いので再調査することにして移動した。

次は得月院のチャンチン、イチヨウの木に抱かれるように細身でスクツと赤い葉をつけて立っている、中国からの渡来木とのこと。この木は計測が容易である、水平な地面に直立している、TPを三脚に据え、水平に樹木に視線線あてボタンを押すと光波にて距離が計測され明示される。巻尺の

計測と同じであり正しいことが確認される。次に樹木の根元そして頂点を視線し傾斜角度を計測すると、樹高の高さが小数点一位(10cm)で明示される。全員計測し、小数点一位の違いであった、しかし、リュウテでの計測の差が若干あるが、誤差の範囲と考える。

その後3本計測して、ひたちの西公園で遅い昼食とした、十二単(ジユウニヒト工)がたくさん咲いているのは珍しいとのこと。

昼食が終わったところ、陽をさえぎる厚い雲花を振るわせる一粒の雨、空気の震えを感じる雷鳴、車に移動するとアスファルトに黒いしみ広がっていく。

残り1本であったが、あさの確認事項とおり、早速車に乗り込み市役所に向かい解散とした。

樹高計測班は前回からの課題である、計測の差異について、メールでの話し合いの続きを三十分ほど市役所で行い、電柱等の高さがわかるもので実地研修を行うこと、計測前の確認事項の明確化などを話し合い終りとした。



<得月院境内のチャンチンの樹高測定>

撮影者：増田
撮影月日：07.4.28

今月の古木・希少木

ニガキ

バラ科の落葉高木で、雌雄異株。高さ6〜12m。全国の低地の林内に分布。この辺りでは雑木林等に自生し、さる神社の境内に古木があります。若枝は赤褐色の細点が目立ち、樹皮は暗褐色をおびた褐色です。葉は奇数羽状複葉で長さ20〜30cm、小葉は対生し、7〜13枚、卵状長楕円形で長さ3〜7cm。五月〜六月、写真の



<雌木の花序>

ように葉腋に集散花序をだし、長さ4〜10cm。花序軸は2〜4回分枝し、雄花序は30〜50個、雌花序は7〜10数個の花をつけます。花弁は黄緑色で楕円形。材は黄色で緻密なため、家具や象眼(ソウガン)に用いられます。枝・葉・材に苦味物質を含み、薬用にされる他、黄色染料や殺虫剤にも供されます。名前は「苦い木」に由来します。(渡辺泰)



運営委員会からのお知らせ

「平成19年度の役員が

決定いたしました。」

五月二十日に開催されました総会席上において平成十九年度役員が提案承認されました。

また、午後には開かれまして理事会に置きまして、定款に基づき平成十九年度の代表理事、副代表理事が互選されましたので御報告致します。

代表理事

坂 弘毅

副代表理事

石神 良三・阿部 幸浩

理事

雨宮 廣之・小倉 裕巳

齊藤 孝・高野 美栄子

若林 和浩・渡辺 泰

小林 久・増田 勝彦

監事

役員一同よろしくお願いいたします。

参加者からの 「お便り」

今月は雑木林応援隊が三回シリーズで開催した、「竹林で竹と遊ぶ」に参加した生協ハイコープの皆様から感想をいただきました。一言で竹林と言っても、楽しみ方は千差万別。三回の活動を通じ、みなさん色々な可能性に気がついた様です。

「竹と遊ぶ」三回シリーズを終えて。

“里山体験”は、大変楽しく有意義な時間となりました。竹林整備の一回め。竹を切るという単調な仕事がこんなに夢中にな



<子どもたちも竹の子と格闘中>
育ちすぎた竹の子は折ってしまうと、それ以上のびないので、竹林が荒れてしまうのを防ぐ事ができます。

れることだったのかと、心地よい汗を流しました。竹細工作りの二回め。切り出した竹で自分なりの作品を作る楽しさに思わず時間を忘れてしまいました。そして最終回の竹の子掘り。足で竹の子を探しながらあったと掘り始めるワクワク感。うまく掘り上げられたときの充実感。そして、竹の子入りの鍋や竹の子料理のおいしかったこと。しばし童心に返ることができました。

竹林での体験を通して地球環境を考え、自然と人間のつながりの大切さを改めて実感しました。会の皆さんの笑顔が忘れられません。またご一緒できる日を楽しみにしています。お世話になりました。ありがとうございました。（関口 順子）

十一月、十二月、四月の三回シリーズで「竹林で竹と遊ぶ」と題し、うしく里山の会の竹林の保全活動にハイコープの組合員（約20名）も自然と触れ合いながら環境を考える取り組みの一環として参加させていただきました。

孟宗竹の切り出し作業、竹で花器作り、竹の子掘りをご指導いただきながら体験しました。竹に触れるのも、のこぎりを使うのも初めてという人達がほとんど。慣れない作業でしたが、いざやってみると面白く最後には夢中になって大人も子供も協力して楽しむことができました。また、自然観察会や井戸掘りなどの貴重な体験、昼食には温かい野菜たっぷりの味噌汁を提供していただき本当に贅沢な時間を過ごしました。また、放置された状態の竹林は立ち枯れや倒竹で景観を損ないゴミの廃棄場所になってしまったり、成長の早い竹は近隣の樹木も覆い隠し生態系を壊してしまったりすることも学びました。きちんと人間が管理してあげることで美しい竹林と里山の環境も守られる：人と自然との上手な共存が大切なのです。

この企画を通して、私達は自然環境を守ることに興味や重要性を知り、自然の恵みへの感謝の心を培うことができました。ハイコープでは今後もこのような企画を実行し、組合員へ環境保全を呼びかける活動を続けていきたいと考えています。

うしく里山の会のみなさんに多大なるご協力いただき、今回の企画が無事に終了できました。里山は生態系を維持し、丈夫な土ときれいな水、新鮮な空気を生み出します。そして私達にやすらぎと豊かな心を与えてくれます。そんな里山で過ごした3日間を私達は忘れることとはないでしょう。本当にありがとうございます。ごさいました。(望月)



＜収穫した竹の子＞
小さな竹林でも、最盛期には驚く程の竹の子が次から次へと生えてきます。

「竹と遊ぼう」の感想
竹林の整備初め、竹を利用しての花器作りや竹の子掘と、たくさん楽しい体験や学習をさせて頂きまして有難うございました。竹林の整備の仕方もお陰様で覚えまして、今後機会がありましたら竹林にお整備に参加して里山の保全に役立てたいと思います。

参加した組合員さんも、普段体験できない竹の伐採を初め竹の子の掘り方など、楽しく学習できたと思います。作業の後のお昼時に頂いた味噌汁も、青空のしたで格別の美味しさでした。
この様に一人でも多くの方々が自然に親



＜四月二十二日の昼食の様子＞
外で食べる食事は格別！作業の後なら尚更美味しく感じます。

暑く長い活動と私たちの活動がこれからも共にひるがっていく事を期待したいと思います。本当に色々とお世話になりました。ありがとうございます。

(佐藤 敬子)

うしく里山の会の「竹やぶを竹林に」企画にお誘いいただいた時は本当に飛び上がりたいほどうれしかったことをおぼえています。

自然を大切に 削減、環境循環型など目的を同じくすることはたくさんあります。中でも私がここをひかれたことは会員さんの皆さんの少年少女のような瞳。何にでも興味しんしん、全力投球の一生懸命さで里山の整備に汗を流す姿がとてもまぶしくステキに思えました。

“まず、自分が心地よく過ごせること”これぞ『口ハス』の代表というような活動が

しんで、里山の良さから大切に気付けていくことが里山保全の一步だと思いましたが、皆様の

うらやましく、折り折に発行される「おとしびみ」にはユーモアたっぷりのコメントが付けていて、毎回楽しませていただきました。

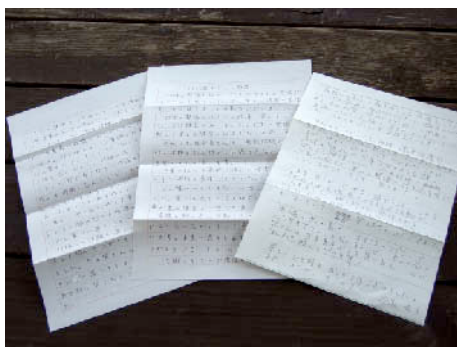
鹿島の我が家で“オオイヌノフグリ”や“ムラサキケマン”を目にするたび、里山の会の皆さんの万年青年ぶりを思い出し、心がほんわり暖かくなります。楽しいひと時をありがとうございます。また、いつか、どこかで！（今泉 光子）

『感想大募集！』

里山の会では、各プロジェクトに参加された方からの感想を募集しております。こんなところが良かった。ここをもっと工夫した方がよいなど、ご意見ご感想をお待ちしております。

これからの活動にとっても励みになりますので、ぜひ、よろしくお願ひいたします。お待ちしております！

(会報に掲載させていただきます。あらかじめご了承ください。)



＜雑木林応援隊＞
「竹と遊ぼう」企画に寄せられたお手紙

6月の里山カレンダー

※活動日は都合により変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
					1 ○雑木林畑隊 9:30観察舎畑	2 ○巨木古木リサーチ(受) 5:30市役所玄関 エコツアー ~3日
3	4 (休園日) ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	5	6 ○雑木林畑隊 9:30畑	7 ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	8 ○雑木林畑隊 9:30観察舎畑	9 ○里山観察隊 8:30森P ○じゃがいも 9:30梅林畑 (会報等原稿不切)
10 ○雑木林応援隊 9:00ムジナ	11 (休園日) ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	12	13 ○雑木林畑隊 9:30畑	14 ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	15 ○雑木林畑隊 9:30観察舎畑	16
17 ○運営委員会9:00NC ○広報11:00NC	18 (休園日) ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	19	20 ○雑木林畑隊 9:30畑	21 ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	22 ○雑木林畑隊 9:30観察舎畑	23 ○巨木古木リサーチ(受) 8:30市役所玄関 調査
24 ○雑木林応援隊 9:00炭小屋	25 (休園日) ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	26 (休園日)	27 ○雑木林畑隊 9:30畑 ○会報発送 13:00NC	28 ○アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	29 ○雑木林畑隊 9:30畑	30

森：観察の森， NC：観察の森ネイチャーセンター， P：駐車場， 畑：観察の森駐車場奥の畑，

コジュケイ：観察の森内コジュケイの林， 観察舎畑：観察の森内観察舎前の畑， ムジナ：結束町の雑木林（通称ムジナの里），

市：牛久市役所， アヤマ園：三日月橋観光アヤマ園， (受)：受託事業， (休園日)：観察の森休園日

広報委員会よりお知らせ

■次号7月号の印刷発行は六月二十七日（水）午後一時からネイチャーセンターで行います。お手伝いいただける方は一時までにお越しください。よろしく願います。

編集後記

今月号から巻頭に写真を大きく掲載することになりました。各プロジェクト活動のメインイベント、プロジェクトの枠を超えた会員全体の取り組みなどを掲載していくと考えています。また、会員の皆様からの写真や原稿もお待ちしております。活動中に面白い写真が撮れたとか、「これはみんなに知らせたいから巻頭で大々的に」などということがありましたら森NCか広報委員までお知らせください。

今までは、主に各プロジェクトリーダーが会報の原稿を書いておりました。しかし、これからは会員の皆様の感想や「会の活動でこんなことをしてみたい」というアイデアなどを多く掲載して、会員みんなの会報にしていきたいと思っています。

会報編集や発送作業などをお手伝いしていただける方も募集しております。会報は外に向かっては顔、内に向かっては動脈、また歴史として残るものです。ぜひ、みなで力を合わせて面白い会報を作っていきましょう！（記 安村和真）

会報さとやま 2007年6月号（発行・NPO法人うしく里山の会）

事務局 300-1212茨城県牛久市結束町489-1（牛久自然観察の森内） 電話029-874-6600